

桜花の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、恙なくお過ごしのことと大慶に存じます。

当県では約 1 ヶ月近く新型 Corona 罹患者がいませんでしたが、先月末に緊急事態宣言が解除された一都三県は言うに及ばず遠く宮城や山形、そして近畿地区でも第 4 派が発生したとの報道に、暗澹たる想いになるのは私一人ではないものと考えるところです。

高齢者へのワクチン接種も当初の予定より大幅に遅れ、各国でワクチン争奪戦が始まる中、ロシアと中国が間隙を縫うように戦略物資としての未承認ワクチンを売り込もうとしています。

なぜ「日の丸ワクチン」が出来ないかについての詳細は、同封の産経新聞記事「正論」に譲るとして、このコロナ禍で改めて「国土防衛」の脆弱性が浮き彫りになりました。

さて先月の防衛関連行事は 18 日に日本会議宮崎県議連の皆様と意見交換会があり、24 日は東京出張の合間に桜満開の靖国神社参拝を行い、隣接する遊就館を見学して参りました。また 28 日は宮崎県護国神社で齋行された「特攻慰霊祭」に参列して、神主の唱える祝詞に暫し瞑目し乍ら、世界各地で散華されたご英霊に対し哀悼の誠を捧げた次第です。

国会では相も変わらず安倍政権時の「モリカケ騒動」の焼き直しのような議論に時間を割き、肝心の新型コロナ対策や特に尖閣防衛の話等は我々の耳に入って来ませんが、皆様には小川先生のメルマガの鋭い指摘をご一読頂き、様々なご意見など賜れば幸甚に存じます。

・離島防衛なんて、よく言うよ！

3 月 22 日の産経新聞にこんな大見出しが踊りました。

尖閣巡視船、一時航行できず 昭和 55 年建造…老朽化で故障か

尖閣と聞くとじっとしている訳にはいきません。まずは記事から。

「尖閣諸島(沖縄県石垣市)周辺で領海警備に当たっていた海上保安庁の尖閣専従巡視船が 1 月、任務中に故障し、一時、航行不能状態に陥っていたことが 21 日、海保関係者への取材で分かった。老朽化が原因とみられる。尖閣では中国海警局の船による領海侵入が相次ぎ、中国は

2月、海警局の武器使用を認める**海警法**を施行するなど日本の有効支配を覆す動きを強めており、**装備の刷新も含めた対策が急務**といえそうだ。

尖閣周辺の領海警備で、任務中の巡視船が航行できなくなる事態は極めて異例。故障が発生したのは**那覇海上保安部**所属のヘリコプター搭載型巡視船『うるま』で、老朽化が進んでいる。
(中略)」

「うるまは1月下旬、尖閣諸島周辺で、船内の電力をまかなう**発電機**の一部が故障し、**動作不良**になった。発電機を動かしている**燃料タンク**を確認したところ、大量の**海水が混入**していることが判明。海水を含んだ燃料をエンジンに使用すれば**機関停止**につながる恐れもあり、一定時間、**エンジンを停止**させたままの状態を余儀なくされた。(中略)」

「**耐用年数を過ぎた**139隻の内訳は**巡視船29隻、巡視艇110隻**。巡視艇の老朽化が特に顕著で、超過割合は46%に上る。海保は順次、新造して**代替更新**を進めているが、**尖閣対応巡視船の増強などが優先**されてきたため、追いついていないのが現状だ。(中略)」

海保の悩みが深いことがわかりますが、気になったのは次の部分です。

「(前略)耐用年数を過ぎた巡視船艇は**故障が増え**、エンジンの出力が落ちて**速度が低下**。さびなどの腐食で**船体に穴が開いて修理が必要**になるほか、**交換部品が製造中止**になっているケースもある。海保は対応が手薄にならないよう、古い船艇が1カ所に集中しないようにするなど**配置を工夫**し、老朽化に対応している」

日本は領海と排他的経済水域を合わせた**面積で世界6番目の海洋国家**です。その海洋権益を海上保安庁と海上自衛隊で守っています。すぐれた企業経営者に若干の基礎知識を備えてもらえば、返ってくる答えはほぼ同じでしょう。

予算としては防衛省と国土交通省で分かれますし、その中でも**海上自衛隊と海上保安庁**という組織別に考えなければならないのは当然です。しかし、そこに日本の**海洋戦略**という視点をかぶせると様々な意味で**合理化**が実現できるのではないかと思います。

護衛艦と巡視船を共通化しろなどというつもりはありません。ただ、両方の艦船で共通化できる部品類は少なくないと思います。それをできなければ企業は成り立ちません。

また、家庭で使う電化製品ではありませんから、早く買い換えさせる目的で部品をストックしないということがあってはならないのが国家の装備品です。最後は「共食い」で部品を融通するにしても、退役するまで部品を確保するのは国家国民に対する責務でもあります。

部品がないなどというのは国家としての怠慢ですし、責任放棄です。

政治家の皆さん、海洋国家とか離島防衛とか口にして恥ずかしいですよね(笑)。(小川和久)

戦前日独伊三国同盟を締結推進し、日本の満州政策を非難したことにより国際連盟を脱退した、当時の松岡外相が上梓した満州に関する本の冒頭に「そもそも外交等はそんなに難しいことでは無く、外交官とか政治家等の専門家の専管事項にあらず、会社経営者や普通の国民なら当たり前を考えたり、思いついたりすることばかりである」と喝破されましたが、小川先生のご慧眼に従えば、国防なども正にそうなのかも知れません。

ご存じの通り松岡外相は毀誉褒貶の激しい人で、その行動や発言の全てを参考には出来ないうにしても、外交のみならず国防なども余り難しく考えず、我々普通人の思考回路で帰結する事等も数多くあるようにも思われます。尤も軍事専門家との圧倒的な情報量や専門知識の差は如何ともし難く、所謂「生兵法怪我の元」などは、そこから演繹された古諺なのでしょう。(笑)

「餅は餅屋に任せる」としても我々国民も防衛や外交問題に興味と関心、そして危機意識を持ち発信し続けなければ、与野党の国会議員の先生方は憲法一つすら変えようとせず、次回の自分の選挙が最大の関心事と云う事になりかねませんので、皆様のご発言に期待致します。衆院解散総選挙も間近いようですが、皆様呉々もご油断無きよう三密回避でお過ごし下さい。

令和3年4月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦